

令和 6 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立日東幼稚園
令和 7 年 2 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

子どもの安全・安心を最優先に考えながら、新しい生活様式を取り入れた園運営を行うことが重要である。日東幼稚園の特色を生かした教育内容を充実させていく。

○安全・防災教育は、命を守る大切な教育である。前回でも、安全・防災教育に力を入れてきたが、更に積み上げていくことで、課題が明確になり、子どもも教師も保護者も安全意識が高まっていく。今回は、特に、災害安全や交通安全に重点を置き、子どもが自分で自分の身を守ろうとできるような意識を育みたい。そのためには、これまで以上に様々な想定を行い、教師自身がその場にふさわしい行動を様々な考えて子どもたちに指導できるように指導内容を工夫する。また、家庭に分かりやすく発信し、日頃の生活自体を大事にしながらし、連携して身に付けていけるように、工夫していきたい。

○一人ひとりの子どもを大切にした教育を行うためには、幼児理解が重要である。園内委員会を充実させるとともに、外部の関係機関と連携し、視野を広げ、園内で共通理解しながら一人ひとりに合わせた支援につなげていきたい。そして、違いを認め合い、一人ひとりの良さが発揮できるような、指導力の向上を目指したい。

○日東幼稚園の特色として、様々な国にルーツをもつ子どもたちが一緒に生活する日常がある。そのよさを生かし、生活や遊び、伝統行事を通して、日本や様々な国と地域の文化に興味や関心がもてるように指導を工夫していきたい。お互いのよさや違いを認め合い、大切に思い、育ち合える子どもを育みたい。

○幼児期は、体験を通して、心や体を動かして学んでいく。感染対策を行いながらも、幼稚園でしかできない体験を重視し、子どもの実態に合わせ、子どもが主体的に遊び、様々な体験ができるように、環境や指導内容を工夫していきたい。また、分かりやすく保護者や地域に発信し、幼稚園教育の理解を深めたい。

○基本的な生活習慣が入園前に身に付いていない子どもが多く、幼稚園教育の果たす役割は大きい。機会を捉えて保健指導を行うとともに、個別に丁寧に関わりながら、身に付けていきたい。また、個々の実態に合わせて、保護者と連携し、身に付けていくように指導の工夫を行っていきたい。

○コロナ禍の間、家庭では室内で過ごすことが多くなり、運動遊びでできることが限られるようになった。そのため、子どもの体力が低下傾向にあることが課題である。感染予防対策に留意しながらも、子どもたちが、遊びを通して楽しんで体を動かすことができるように教材研究を行い、環境や活動内容を工夫して、体を動かす活動に取り組み、しなやかな体づくりにつなげていきたい。

○これまでも、日頃から園内での異年齢交流を大切にしてきたことから、思いやりや憧れの気持ちが育っている。小・中学生との交流や地域の方との関りを通して、心のつながりを大切にしてきた。これからも、園内だけでなく地域の方々と連携しながら、時期を逃さずできることを考え、積み重ねていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守るように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。
- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子ども一人ひとりを大切にした教育を心がけていますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関わりを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守れるように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。
- ②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子ども一人ひとりを大切にした教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。
- ③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を50%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。
- ②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を50%以上にする。
- ③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関りを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。
- ②今年度の本園の教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目について、「そう思う」と回答する教職員の割合を70%以上にする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

本年度の園運営全体を通して、年度末の保護者アンケートの結果から、年度目標は目標を上回って達成することができたと評価された。目標達成に向けて、全教職員で子どもの実態を把握しながら、それに応じた指導方法を検討し、実践を積み重ねてきたことが子どもたちの成長と教育活動の成果につながった。

本園は、日頃から異年齢の関わりを大切にし、教職員間で連携して子ども一人ひとりを大切に育てるという意識をもち、互いに育ち合えるよう保育を行ってきた。計画的に機会を逃さずに行った安全指導や避難訓練、考えたり工夫したりして遊び、様々な体験ができる保育内容の工夫、基本的な生活習慣が身に付く継続的な取組など、全教職員での取組に加え、保護者や地域との連携により、子どもたちに、意欲、関心、思いやり、あこがれ、自分の身を自分で守ろうとする気持ちなどが育まれたと思われる。

今後も、日東幼稚園の特色を生かし、園の実態を捉えて、教育内容を充実させ、子どもたちにたくましく生きる力を育んでいきたい。また、保護者や地域との連携の仕方を工夫し、教育内容の理解が深まるように、分かりやすい情報発信に努めたい。

大阪市立日東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守るように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。 ②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子ども一人ひとりを大切にしたい教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。 ③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を50%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安全教育を通して、子どもが安全に気を付けて過ごす意識をもてるような指導を工夫する。 指標 ・安全点検を毎月、全職員で行う。 ・様々な災害を想定して避難訓練や交通安全指導、防犯指導を年7回以上行う。 ・機会を捉えて、年7回以上保護者啓発を行う。	A
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自分のことを大切に、相手のことを思いやる気持ちが育めるような指導の在り方を工夫する。 指標 ・校務支援PC内「いいところみつけ」を活用し、子どもの実態を共有する。 ・学期に1回以上園内委員会を行い、一人ひとりの子どもの実態や課題、支援の方向性などを共通理解する。 ・巡回相談や府立支援学校地域支援などを活用し、指導に生かす。	A
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 日本をはじめ、国や地域の文化にふれ、親しみや興味、関心をもつことができるような指導を工夫する。 指標 ・機会を捉えて日本の伝統行事を知らせたり、伝統的な遊びを知らせたりする。 ・国や地域の文化について、学期に1回教材研究を行い、保育に生かす。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

- ①年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守るように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は80%であったことで、目標は達成している。
- ②年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子ども一人ひとりを大切にした教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は70%であったことで、目標は達成している。
- ③年度末の保護者アンケートで、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は65%であったことで、目標は達成している。

【取組内容について】

- ①・「警備及び防災の計画」「学校安全計画」に基づき、幼児の実態と発達段階を考慮した計画を立てて、避難訓練や防犯指導等を行っている。
避難訓練（火災）2回、おもちゃ花火教室1回、防犯指導2回、大阪880万人訓練（地震）1回、避難訓練（地震）1回、避難訓練（津波・二次避難・引き渡し）1回、避難訓練（不審者侵入）1回、交通安全マナーUP教室1回

・5月の火災訓練では、絵本や紙芝居など視覚支援教材を活用し事前に火災の様子や避難の仕方を知らせたことで、より子どもたちの理解につながった。3歳児は4・5歳児の避難する姿を見ることで、非常ベルの音を聞きハンカチで鼻と口をおさえながら避難することを知った。『お（押さない）は（走らない）し（しゃべらない）も（戻らない）の約束』についての話をし、避難の仕方を丁寧に伝えた。事後も、クラスで話しあったことで、再確認することができた。

・9月の大阪880万人訓練に合わせ、園では地震の避難訓練を行った。地震発生時の身の守り方（椅子や机の下に頭をかくして守る、防災頭巾をかぶる、ダンゴ虫ポーズ）を伝えた。園内の放送設備が使用できるか確認でき、教職員の安全意識の向上にもつながった。

・10月の大阪市立心和中学校で津波を想定した地震の避難訓練では、初めてコードモンメールを活用して、保護者との引き渡しも行い、保護者に引き渡しの方法を知らせると共に、教職員の配置や役割を共通理解した。また、事前に中国語ボランティアの方に避難訓練について知らせてもらったことで、中国にルーツをもつ子どもたちも安心して参加し、安全教育につながった。

・1月には、教職員にも予告なしの避難訓練を行った。これまでの訓練を生かし、教職員が自己判断しながら他の教職員と連携し、子どもの安全を守ることができた。子どもたちは1年間の訓練の積み重ねがあったことで、教師の指示を聞き、素早く避難することができた。

・1学期終業式に、保護者啓発も兼ねて防犯指導を行った。教職員が寸劇で、外出時は保護者と離れない、知らない人にはついて行かないことなど夏休みに生かせる指導をした。保護者へは、子ども一人でトイレに行かせないことを啓発した。

・2学期終業式には、大阪府警、浪速警察署と連携し、防犯・安全について指導してもらった。視覚物（絵や記号）を使い、クイズや、着ぐるみを着て寸劇での指導を見た。子どもたちは、身近な話に関心をもち、保護者と離れないことを自分なりに考えながら話を聞くことができた。終業式の日に行ったことで、多数の保護者が参加でき、啓発にもつながった。

・2月に、心和中学校で行われた日東地域交通安全マナーUP教室に5歳児と保護者が参加し、交通ルールを再確認することができ、就学に向け、交通安全の決まりを守る大切さに気づき、意識をもつことに繋がった。また小学校へ就学する子どもにとって、地域の見守ってくださる方々を知る機会になった。

- ・避難訓練や安全指導などを行った際は、その都度、ホームページや降園連絡で保護者に取り組み内容や子どもたちの姿を知らた。(年7回以上実施) また、夏休みに家庭でも防災頭巾を被る練習をしてもらえるよう啓発し、家庭と幼稚園が連携できるようにした。徐々に、自分の身を自分で守ろうとする意識が大きくなっていった。緊急時や災害時に、全保護者と連携が取れるよう、緊急メールの送受信テストを行い保護者自身が非常災害時を想定し、保護者の動きなども確認してもらえた。
 - ・安全点検簿をもとに毎月安全点検を行い、細かく確認している。今年度から担当外の間所を確認し合えるよう工夫した。それぞれの教職員が、普段使用することのない場所の点検を担当することで、新たな視点で、老朽化しているところや危険な箇所などを注意深く点検している。園庭やトイレなど、子どもたちが使用する場所の安全点検を日々行い、不要な遊具や物を片付ける、高い所に物を置かないなど、安全に過ごすための環境づくりに努めた。教職員自身の安全に対する意識の向上や共通理解につながった。
トイレ、手洗い場、1F保育室や廊下の床、作業室の補修工事が行われ、ひび割れや木材が老朽していた所を修繕することができ、より安全な環境で保育することができている。
- ②・校務支援パソコンの『いいことみつけ』を活用し、日々の子どもの姿や保護者との連携についてなど、記録に努めた。園内委員会の時間が設けにくい時も子どもの実態を共有でき、保護者との連携を図ったりすることにもつながった。また、日々職員室で子どもの姿や援助に対しての成果や課題、成長していることなどを話し合っていることで、教職員全員が幼児や保護者一人ひとりを大切に想う気持ちを持ち、個に応じた対応、実践することができた。
- ・4・8・12月と年3回、園内委員会を実施し子どもの実態や支援方法、今後の課題や取り組めることなどについて話し合った。教職員それぞれの立場からの視点で意見を出し合い今後の体制を考え共有し、さらに連携を図りながら園全体で子ども一人ひとりを大切にする教育を心掛けることができた。
 - ・家庭訪問1回や学級懇談会1回、個人懇談2回を通して保護者の話を丁寧に聞くことで、家庭での様子や保護者の思いを聞くことができ、子どもの内面理解につながった。また、外国にルーツをもつ保護者とも話し合いができるよう、区役所事業の通訳派遣を依頼して行った。保護者の思いや子どもの家庭での姿などを知る機会にもなった。
 - ・9月から週に1回、小学校と連携し中国語ボランティアの方が来てくださった。普段、言葉だけでの理解が難しく戸惑っている子どもが安心して活動したり、自分の思いを母国語で話したりすることができ、子どもの心情理解につながっている。また、降園連絡の際には連絡事項を保護者へ分かりやすく通訳してもらうことで、子どもだけでなく保護者一人ひとりも大切にしたい関わりをもつことができた。幼稚園が発信する連絡の意図が細かく伝わると、保護者も納得してくださり、笑顔で教育活動へ協力をしてもらうことができた。保護者との信頼関係が深まると、子どもたちもより安心して活動する姿につながることを学んだ。
 - ・5歳児は就学に向けて、小学校との連携を深めた。子ども一人ひとりを大切に、就学後の生活を安定して過ごせるよう、引き継ぎをしたり、実際に子どもの様子を見に来ていただいたりした。また小学校側も、一人ひとりの子どもに丁寧に連携してくださり、保護者も子どもも安心して就学への期待をもつことができている。
 - ・養護教諭が“自分の体も友達の体も大切にする”ことや、“自分がされて嫌なこと、してもらって嬉しい行動”を知るための保健指導を行った。子どもからは、「嫌な時はやめてと言う」「友達に優しくしてあげる」「相手の顔(表情)を見たら分かる時がある」などの声があがった。自分が大切な存在だということを改めて感じる機会となり、そこから相手のことを思いやる言動が増え、成果を感じた。また、行った保健指導の内容を保健だよりに掲載し、保護者啓発にもつなげた。

- ③・一年を通じて、日本の伝統行事や他国の行事について知らせ、考える機会を持った。子どもの日の集い（５月）七夕の集い（７月）十五夜（９月）年賀状（１２月）正月（１月）節分（２月）ひなまつり（３月）など、子どもにも理解しやすいよう、絵本や教師の劇などを取り入れて知らせることで、興味をもって見る姿があった。
- ・外国にルーツをもつ子どもが多い為、月１回の誕生会では、“お誕生日おめでとうございます”の文字を日本語と中国語両方並べて掲示した。そうしたことで、子どもたちの中国語に対する興味や関心が出てきた。また、保護者からも喜びの声を聞くことができた。
 - ・手遊びや歌など、外国でも歌われている曲で親しみのあるものを取り入れ、その曲や言葉を遊びの中に取り入れた。子どもたちが知っている手遊びや歌をうたうことにより、自然と外国語に親しむことができた。
 - ・教師が異文化や言葉を理解しようとしてきた。その姿を見て子どもたちの間でも、他言語で話しかけたり、両方話せる友だちに教えてもらって話したりするようになってきた。３学期の生活発表会では、『きょうも元気！』の歌で、“おはよう”の歌詞を“ザオシャンハオ”と中国語で歌うことにつながった。自身の母国語をみんなに教えることを喜ぶ子どもの姿も見られた。
 - ・９月のふれあいの集いでは、地域やおじいさんおばあさんに教えてもらい、こまやあやとり、お手玉、折り紙など、日本の昔の伝統遊びを経験することができた。
 - ・１０月に行った園外保育（キッズプラザ大阪）では、多文化遊びにふれるコーナーで外国の楽器にふれたり衣装を着たりすることができ、外国の文化について知る機会となった。また、外国にルーツのある子どもの中には、自分のルーツのある国の遊びにふれて嬉しそうな表情を見せる子どももいた。
 - ・１０月の運動会では、５歳児がオリンピックが開催された年であることを生かした保育の工夫を行った。写真の掲示や動画鑑賞をして、オリンピックに興味をもったり、地球儀や絵本をみて国の場所をみたり、知っている言葉を教え合ったりして、他国についての興味関心が広がった。
 - ・地域の方に和太鼓の指導に来ていただき、和太鼓にふれる機会をつくることができた。運動会でも地域や保護者の方と音楽に合わせて和太鼓を中心として盆踊りをし、保護者や地域の方々も一緒に、日本の伝統的な楽器や踊りに親しみ、関心をもつ姿が見られた。
 - ・１０月、なにわ絵本の会で、絵本ボランティアの方が来てくださり、各年齢に合わせて絵本を読んでもらった。その中で中国出身の方が中国語の絵本を読んでもらったり、中国にルーツのある子どもは目を輝かせて喜び、母国語で聞くことができた喜びが伝わってきた。園児みんなが中国語に触れることができた。
 - ・絵本を日本語版と外国語版を隣同士に並べて置いておくことで、他国の言語にも興味関心をもった。絵本を見比べたり、家庭に持ち帰り、外国語での絵本を楽しむことにつながった。

次年度への改善点

- ①・今後も様々な想定で、避難訓練を積み重ね、自分の身は、自分で守る方法が身に付くようにする。また、教職員の安全意識を高め、役割や避難時の配置などを確認し、連携して安全教育の推進に努める。
- ・保護者と連携した安心、安全な教育活動につながるよう、今後も機会を捉えて、ホームページや写真掲示、降園連絡等で啓発していく。
- ②・今後も園内委員会を計画的に行い、日々教職員間で気付いたことを声に出し合い、園全体で一人ひとりの子どもを大切にしたい教育であるよう努める。
- ③・外国にルーツをもつ子どもや保護者にも日本の文化を理解してもらえるように、日本の伝統的な遊びや文化の由来、意味などの掲示を行ったり、写真掲示やホームページを活用したりするなどし、保護者への発信方法を広げていく。

大阪市立日東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園で、いろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。</p> <p>②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を50%以上にする。</p> <p>③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>子どもの興味や関心、発達を捉え、遊びを通して楽しみながら様々な体験ができる教育内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、見通しをもった保育を工夫する。 ・実践記録を年3回以上検討し、幼児理解に努め、指導に生かす。 ・月に3回以上、子どもの育ちについて、保護者や地域に発信する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>基本的な生活習慣が身に付くよう指導の工夫をし、家庭との連携を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・子どもの実態に合わせて、毎月1回、保健指導を実施する。 ・「保健だより」を中心に月1回以上、家庭への啓発を図る。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>進んで体を動かして遊ぶことを楽しめるよう、実態に合わせて環境や活動内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・月に1回以上、楽しんで体を動かすことができるような環境や活動内容を工夫する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

- ①年度末の保護者アンケートで、「お子様は、幼稚園で、いろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合は76%以上であったことで、目標は達成している。
- ②年度末の保護者アンケートで、「お子様は、入園前に比べて基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は67%以上であったことで、目標は達成している。
- ③年度末の保護者アンケートで、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は80%以上であったことで、目標は達成している。

【取組内容について】

- ①・1年を通して、週案や日案を立てる際に、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し保育を進めた。週案についての話し合いでは、子どもの実態について話し合い、実態に合わせた保育内容について検討した。子どもの心が動くような工夫をすることで、一つの遊びが枝分かれし、いろいろな遊びにつながって発展した。
- ・1学期、5歳児は、生き物に興味をもつ子どもが多いことから、観察器を準備したり、ダンゴムシを飼育できる環境を整えたりした。そうすることで、より生き物への関心が高まり、3歳児や4歳児にも発見したことを知らせようとする姿が見られた。
- ・秋には、自然物に触れることができるよう環境を工夫したことで、ままごと遊びや製作遊びに取り入れる等、自然物に親しんで遊ぶ姿が見られた。ドングリや種子等の自然物を観察器で見たり、絵本や図鑑で調べたりする子どもの姿が見られ、探求心を育むことにつながった。
- ・10月、サツマイモ堀りでは、友達とツルを引っ張って楽しむ姿が見られた。その後、イモのツルでなわとびや電車ごっこ等、イモツルを使って存分に遊ぶことを楽しんだ。3・4歳児は、出てきたダンゴムシを集めたり、じっと観察する姿が見られたり、サツマイモの土の中から出てきた幼虫に興味関心をもつことにもつながった。5歳児は掘ったサツマイモの大きさを比べたり、並べて数を数えたりする経験ができた。この経験が生かされ、3歳児は2月の生活発表会で「おおきなおいも」の劇遊びに発展していった。
- ・1月、プールの水が凍っていることに気付いた子どもから、氷を指で触ったり手で持ったり、氷に向かって投げたりと遊ぶ姿があった。冬ならではの寒さを生かした自然との関わりをもつことができた。氷の冷たさを実際に体験する中で、氷ができる不思議さを感じたり、気温の変化に気づいたりする姿も見られた。
- ・劇遊びごっこでは、必要な物を子どもたちと一緒に考えてつくすることで、よりイメージを膨らみ遊ぶ姿が見られた。4歳児では、中国語の話せるボランティアの先生に来てもらい、中国語で絵本の読み聞かせをしてもらったことで、全員が物語を理解し、劇遊びを楽しむことができた。5歳児は、運動会で凱旋門や洋風のお城に興味をもち調べたり、つくったりする姿から、作品展では自分たちのお城づくりに発展していった。生活発表会では、その城を生かしたお話を楽しんだ。また、発達段階に合わせて、OHP（映像機器）で遊んだり、1年を通して楽しんできたダンスや言葉あそびを取り入れたり、自分たちでつくりあげる充実感や達成感につながった。
- ・4・5月、6・7月、9・10月に子どもの遊びの実践記録を検討した。3クラスの姿を読み取ることで、発達に応じた子どもの姿や、教師の働きかけについて考えることができた。また、その時の子どもの興味関心は何か、今後どんなことを経験してほしいかなどが明確になり、指導に生かすことができた。

- ・1年を通して、その時期の子どもの様子を写真掲示することで、保護者の安心につながり、遊びを知ってもらい機会となった。また、PTA総会や学級懇談会の時にも園での活動を保護者に知らせた。それだけでなく、行事や日々の園生活の様子をホームページで保護者や地域に発信し、子どもたちの育ちの様子を見てもらう機会をつくった。ホームページや写真掲示、降園連絡等を通じて、子どもの育ちを保護者や地域に発信することができた。

- ②・指標に基づき、毎月、各年齢に合わせた保健指導を行った。担任と事前に打ち合わせを行い、指導を実施し、反省を行うことで、子どもたちの実態にあった課題を解決し、生活習慣が身に付いてきている。

	うめ組（3歳児）	さくら組（4歳児）	きく組（5歳児）
4月	保健室の紹介	手洗い	手洗い
5月	手洗い・歯みがき	排泄 プライベートパーツについて	洗顔
6月	うがい	洗顔	歯みがき
7月	うがい・歯みがき	うがい・歯みがき	食育（野菜の力を知る）
9月	けがの予防	けがの予防	体と心の安全
10月	トイレの使い方	トイレのマナー	トイレのマナー
11月	手洗い	手洗い・咳エチケット	姿勢
12月	衣服の着脱	姿勢	第一大臼歯
1月	生命の安全教育	生命の安全教育	生命の安全教育
2月	手洗い	手洗い	食育（3色栄養）

- ・継続して指導することで、基本的な生活習慣が身に付く為、保健指導の後も手洗い場・トイレなどで個別指導を続けた。
- ・5月の排泄の指導では、トイレの正しい使い方と共に、「プライベートパーツはとても大切なところなので、他人に見せない、他人のものを見ない」という指導を行った。その結果、今まで他児が排泄しているところを面白がって覗く園児がいたが、園児同士が「覗いたらあかんねん」と声を掛け合い、制止している姿が見られた。
10月に再度、排泄の指導を発達段階に応じて行った。ノックをする、男児の小便の仕方、トイレトペーパーの使い方など。教材に手作りのトイレやトイレトペーパー台を使用したことで、視覚的にも分かりやすく、実際に使用する際に自らやってみようとする姿が見られるようになった。指導した内容を保健だよりに掲載し、保護者啓発にもつなげていった。
- ・6月の弁当参観・歯みがき指導では、実際に子どもたちが歯みがきしている様子を見てもらったり、歯垢染め出しをしてもらったりした。保護者が子どもの歯を見ながら、染め出しチェックシートにみがき残しを書き込んだことで、「歯と歯の間に汚れが多かったです」「みがけているようで、全然みがけていなかったの、これからは仕上げみがき頑張ります」などの感想が得られ、歯みがきと仕上げみがきの大切さを知らせることができた。
また、3歳児は歯垢染め出しをしていないことや、当日欠席の保護者もいたため、チェックシートの感想を載せた「歯の健康号」を発行した。
- ・夏休みの長期休業中は「歯みがきカレンダー」を発行し、2学期に回収した。その結果、提出率は80%であり、提出した家庭は、家庭での歯みがきが継続されていた。
- ・9月の歯みがき指導で、歯科衛生士より歯みがきの大切さを教わった。その後5歳児は自分の歯の絵をかいた。手鏡で自分の歯をじっくり見ることで、歯についての興味関心と大切にする気持ちが芽生えた。
- ・3・4歳児は、弁当の後、毎日教師と一緒に歯みがきをすることで、食後の歯みがきの習慣がついてきている。
- ・6月に3歳児へのうがい指導を行ったが、うがいができる園児が少なかったため、継続して指導を行うことでガラガラうがいはまだ難しいが、ブクブクうがいはほとんどの園児ができるようになった。

- ・12月に行った姿勢の指導後は、子ども達自身が食事の時に良い姿勢を意識するようになった。
 - ・冬期休業中は「手洗い・うがいがんばり表」を発行し、風邪の予防や清潔習慣が継続できるよう、家庭への啓発を図った。その結果「手洗い・うがいがんばり表」の提出率は93%で、家庭でも取り組んでいただけていることがわかった。3学期になり、感染症予防も含めて、再度手洗いの指導を行ったところ、冷たい水でも丁寧に手を洗う子どもの姿が見られた。
 - ・3学期の始業式後の保護者会で、本園で取り組んでいる「生命の安全教育」について話したところ、後日取った保護者アンケートで、「日東幼稚園の生命の安全教育の取り組みはわかりましたか」の問いについて「はい」が97%であった。今後も継続していきたい。
 - ・毎月の保健だよりに加え、臨時号として、季節に合わせてのたよりを発行した。(健康診断号、歯の健康号、夏休み号、けがの予防号、目の愛護デー号、歯の健康号2、冬休み号 計7回)
- ③・年間を通して体を動かして遊ぶことを楽しめるような活動や保育内容を工夫した。子どもの遊びの様子に合わせて、巧技台やエス棒、フープ、梯子、滑り台等の運動遊具を用意することで、いろいろな体の動き（跳ぶ、バランスを取る、滑る、這う等）を取り入れながら遊びを楽しむ姿につながった。
- ・2学期の運動会ごっこでは、各学年で楽しんで体を動かせる遊びを工夫した。3歳児は1人1台の電車でトンネルをくぐったり、草に見立てたゴムのハードルを飛んだり、子どもたちに合わせた環境を整えたことで、それぞれの子どもが自分なりに遊びを楽しむ姿が見られた。4歳児では、忍者になりきって遊んだ。自分だけの新聞ボールを、そっと運んだり思いきり投げたりいろいろな動きを楽しむ姿につながった。5歳児は一輪車、竹馬、サッカー、一本下駄の中から自分で決めた遊びに挑戦した。毎日取り組むことで、少しずつできていく喜びを感じたり、友達と一緒にがんばって挑戦したりする姿が見られた。リレーでは、どうすれば速く走れるか、走り方を考えたり、走る順番をチームで考えたりし、友達と協力する姿が見られた。また、盆踊りの曲に合わせて太鼓を叩くことを楽しめるよう、自然と体を動かして遊ぶことを楽しめるような速さの音楽や、樽太鼓を準備した。3クラス一緒に遊ぶ中で刺激を受け合い、自分なりの叩き方を工夫したり、友達と一緒にタイミングを合わせて一緒に鳴らしたりしながら体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを味わった。運動会後も遊びは継続し、互いに興味をもって見ていた異年齢の遊びを一緒にすることで、運動会の余韻を楽しむことができた。
 - ・3学期、寒い時期には園庭遊びの前に、みんなで走ったり体操したりする等、体を動かすことで温まるという経験をすることができた。鬼ごっこやしっぽ取り、ドッジボールやサッカーなどのルールのある遊びを取り入れたことで、友達と一緒に、体を動かして遊ぶことを楽しむ姿につながった。
 - ・集会では、1年を通して、子どもの実態に合わせた体操やふれあい遊びを行った。例えば、「からだ☆ダンダン」は、入園したばかりの子どもにとっても親しみやすく、自ら体を動かして遊ぶ姿につながった。「こいぼり体操」「月夜のポンチャラリン」「サンタはいまごろ」等は季節を感じながら、音に合わせて体を動かすことができた。このように、様々な体操やダンスを、全クラスで共有して遊ぶことで、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ姿につながった。
(4月：からだ☆ダンダン、バスに乗って、5月：こいぼり体操、ガッチリガード、6月：ムシバイキンたいそう、7月：エビカニクス、バナナくんたいそう、さかながはねて、おふろやさんへいこう、9月・10月：だ・る・ま・さんがおどった！、月夜のポンチャラリン、11・12月：秘伝！ラーメン体操、サンタはいまごろ、1月・2月：こすれこすれ)
 - ・学期の終業式後に保護者と一緒にふれあい遊びを楽しんだ。様々な工夫したふれあい遊びを行うことで保護者と一緒に体を動かすことの楽しさを味わったり、家庭でも一緒に遊べるような内容を考えたりし啓発に努めた。子どもと保護者がふれあうきっかけをつくることができたことで、子どもたちが安心して体を動かすことを楽しめるようになった。

次年度への改善点

- ①・自然物や自然現象にも目を向けられるような遊びを取り入れ、その時期ならではの遊びも楽しめるような教材研究を進めていく。
 - ・今後も子どもたちにどのような姿に育ってほしいのかを明確にし、見通しのもった保育を行う
 - ・子どもの育ちについて、保護者や地域へホームページや写真掲示などで周知し教育を啓発する。
- ②・保健指導後も、子どもたちが基本的な生活習慣を継続していけるように、担任と連携をとっていく。
- ③・子どもの心が動くような環境構成や教材を工夫し、体を動かして遊ぶことが楽しいと思えるような遊びを取り入れられるようにしていく。また、その遊びが継続・発展するよう、子どもの思いを取り入れながら、用具等の環境を整えていく。
 - ・保護者にも紹介し、家庭での遊びにもつなげることで、保護者とふれあう機会をもてるようにする。

大阪市立日東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関わりを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を60%以上にする。 ②今年度の本園の教職員アンケートで、「研修等への参加や振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目について、「大変そう思う」と回答する教職員の割合を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 異年齢の友達や地域の人に関心をもち、親しみの気持ちや思いやりの心を育む。 指標 ・月に1回以上、異年齢の友達との交流内容を見直し、工夫する。 ・地域の人との交流を見直し、実施する。	A
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研修会や講演会、他園参観等へ参加、園内研究会などを活用し、自己の資質向上をはかる。 指標 ・研修会や講演会、他園参観への参加し、学びを共有する（資料の配付・回覧等）（年10回） ・園内研究会を実施し自己を振り返り、学びを生かした保育の向上につなげる。（年3回） ・教職員アンケートを実施する。（8月・2月）	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標について】 ①年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関わりを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は65%であったことで、目標は達成している。 ②本園の教職員アンケートで、「研修等への参加や振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目について、「大変そう思う」と回答する教職員の割合が100%以上であったことで、目標は達成している。 【取組内容について】 ①・保育内容や子どもの実態に合わせて、異年齢交流の内容を見直しながら、進めることができた。週1回週案の打ち合わせを行い、園全体で共通の教材を使用したり、異年齢の交流の時間を設けたりした。年長児は年下の友達に優しく接し、3・4歳児は、友達との関わり方を知り、憧れの気持ちを育んだ。また5歳児が、3歳児の身支度やお弁当の準備を手伝ったり、園内探検や園外散歩で手をつないだりしたことで、3歳児は安心感をもつことにつながった。また5歳児は、4・3歳児への関わり方を知る機会になった。

- ・未就園児活動を年間 17 回実施し、園児との交流を行うことができた。未就園児に声をかけ、遊びに誘い、優しい気持ちで関わらうとする姿が見られた。運動会ごっこや生活発表会ごっこ、凧揚げなど、子どもたちが楽しんでいる遊びと一緒に楽しんでもらうことができた。3 歳児も、少しずつ未就園児にした親しみをもち、一緒に遊ぶことで、一つ大きくなることへの期待につながっている。
- ・地域食事サービスへ行き、地域の方々と交流を深めた。5 月の 1 回目の地域の食事サービスでは、大雨警報が発令され、現地に向かうことができなかった。しかし、関わりをもてるようにできることを考え、リモートで繋がり、歌を届けた。2 回目では、やっと会えたことを喜び、地域の方々に親しみをもって、肩たたきをしたり、歌を歌ったりし、交流を楽しんだ。
2 学期には、4 歳児も地域食事サービスに出かけるようになり、さらに交流が広がった。歌をうたったり、「やきいもグーチーパー」でじゃんけんをしたり地域の方と楽しく交流ができた。「また来ます」「待っていてくださいね」といった子どもの言葉も聞かれるようになった。
11 月には、初めて 3 歳児も 4 歳児と一緒に出かけた。カレンダーのプレゼントをつくり、手渡しできたことで、「プレゼント喜んでくれるかな」と相手を想う気持ちや、感謝の気持ちに繋がった。地域の方々に、「ありがとう」と頭を撫でてもらい、喜ばれている様子を感じることができた。1 月の今宮戎神社での園外保育では、地域の方々に自ら進んで挨拶をする姿が見られた。地域の方々に親しみをもっていることを感じられた。
- ・6 月、1 月、2 月の年 3 回、広田保育所と愛染橋保育園と交流を行い、ふれあい遊びを行うことで、同じ地域に育つ仲間として意識することにつながった。
- ・6 月、今宮高校吹奏楽部との交流では、子どもたちの親しみのある曲を演奏してもらったり、楽器体験と一緒にさせてもらったりし、音楽を通して高校生との交流を楽しんだ。また 9 月には今宮高校の文化祭に招待してもらった。吹奏楽部やダンス部の演奏演技をみたり、保護者と校内の模擬店をまわったりした。高校生が子どもたちに優しく話してくれ、子どもたちが安心して人と関わろうとする気持ちが育まれた。
- ・7 月、心和中学校との交流では、なつまつり遊びを一緒にする中で、子どもたちは遊び方を伝えたり、中学生との交流を楽しんだりした。
1 月には、中学校の校庭で遊ばせてもらった。広い校庭で思う存分体を動かして遊ぶことができた。校長先生と一緒にリレーをしてもらったこともとても嬉しかった様子であった。帰園した子どもたちは「ありがとうの気持ちを伝えたい」とお礼の手紙をかき、校長先生に渡すことができた。
- ・9 月のふれあいの集いでは、今年度は地域の皆様をお招きしたことで、遠方のためなど、普段祖父母と触れ合えない園児も交流することができた。子どもたちは、地域の方々や祖父母の方々に折り紙やけん玉を教えてもらうなど楽しい時間を過ごし、敬う気持ちやいたわる気持ちを育んだ。
- ・9 月に、地域の方が和太鼓を教えに来て下さった。子どもたちは、“師匠”と呼び、親しみや思いやりの心を育むことができた。
- ・1 月、浪速小学校の校庭で凧揚げをさせてもらった。子どもたちは、広い校庭で、存分に凧揚げを楽しむことができた。幼稚園に帰ると、「楽しかった」とお礼の手紙をかいた。その後 2 月に 5 歳児が幼保小交流で浪速小学校へ見学に行くと、凧揚げのお礼の手紙を掲示してくださっており、見つけた子どもたちはとても喜んだ。交流会では 1 年生との交流を楽しんだり、保育所の友達と会うことで地域の同じ年齢の友達がいることを知ったり、親しみの気持ちもち、就学への期待にもつながった。

②・年間を通して毎月様々な研修会や講演会へ、本園担当の教職員が参加した。(年10回以上は軽く超えている)また、研修で学んだ後は他の教職員へ資料の回覧や配布をしたり、職員会議や日々の職員朝礼時を活用したりして報告を行い、学びを共有できるよう工夫した。保健関係、事業・事務関係、社会情勢など専門分野に問わず、教職員の学びの機会となった。

- ・毎月行われている、ブロック研究部会や保健部研究部会での講演会に参加し、研究の主題に沿って話し合ったり自園について振り返り考えたりすることができた。他園の研究保育に参加し、教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成など、実際に保育を見ることで学びをすぐに保育実践に生かすことができ、資質向上につながった。また今年度は特に、小学校以降の学習や学校生活につながるよう、小学校の先生方と話し合う機会がもてる研修会や研究授業にも進んで参加した。幼児教育がどのようにつながっていくのか、幼児期に育みたいことについてなど学びを深めることができた。小学校以降の学びについて知ることで、今後の小学校との連携につなげていきたい。
- ・オンラインによる専門研修に参加し資料を回覧することで共有した。(学校での事故を減らすために、学校教育と性の多様性、熱中症の予防と対策など)また、長期休業中を利用して開催されるオンライン研修にも積極的に参加した。自身の実践を振り返り課題が明確になった。
- ・園内では、様々な経験年数や専門の教職員が在籍する利点を生かし、行事や保育の準備を工夫したり、協力・分担したりしている。機会を捉え誘い合って一緒に行うことで、考えを出し合い学びにつながるミニ研修会となっている。(絵の具の色づくりや用紙の色の選抜、ICTの活用方法、プールの薬の作り方と濃度の確認方法、AEDの使い方、公費の流れについて、自然物の栽培・収穫方法、園庭整備の仕方など)教職員同士が互いの良さや得意なことを知り、刺激を受け合いながら資質向上につながっている。
- ・園内研修支援として指導員の指導の下、実践記録の読みとり(7月)、園内研究会の実施(1月)、OJT事業(年間3回)を行った。また毎月、外部より保育実践の指導を頂いている。子どもの実態や育まれていること、時期や季節に合った保育の組み立てなどを学び、自身の保育の振り返りや次への課題などが明確になった。その学びを共有し、教師同士が刺激を受け合うことができた。
- ・10月には、新任教員研修が本園で行われ、大阪市の新任教諭が3歳児の研究保育を参観した。参観後は研究討議、実践交流を実施し、新任教員だけではなく、他の教員も原点に戻り自身を振り返ったりその後の実践に生かしたりすることができた。
- ・教職員アンケートを8月2月、計2回実施することで、教職員一人ひとりの思いや考え、園全体の今後の課題についてなど明確になった。アンケートの中でも、「他園、他クラスの保育を実際に見ることで自身の保育に取り入れることができた」「研修後の資料回覧を見て学びにつながった」「小学校の先生と話し、研究授業を見ることで幼児教育に必要なことや自分たちが大切にできていることが間違いではないことを再確認した」「自園の強みを生かし、また課題を明確にしそれぞれの教職員が自己研鑽を重ねるために取り組んだ」などの意見を聞くことができ、教職員の意識の高まりを感じた。

次年度の改善点

- ①今後も、異年齢での交流や地域の方との交流を行い、いろいろな人と関わりをもつ中で、思いやりの心を育んでいきたい。写真掲示やホームページを活用し、交流の様子を保護者の方々にも伝えていきたい。
- ②今後も、研修会に参加するとともに、学びを共有できるよう工夫し、自己の資質向上と、園全体の資質を高められるよう努めていく。また、教職員が進んで研修会等に参加し、資質向上につながるよう、役割や担当を明確にし、学ぶ意欲を高めていく。園内研究会を実施したり、行事等の反省会や打ち合わせを丁寧に行ったりすることで、学びを生かした保育の向上につなげていく。